

■梁川星巖 漢詩人。天保期の江戸詩壇の中心的存在になった後、勤王の志士たちとに接触し、国事に奔走した。

やながわせいがん

初の横綱・・1789＝ 美濃国安八郡曾根村(岐阜県大垣市)で、郷士稲津長高の長男に生まれる。

松平定信引退1793＝ 4歳： 生まれつき覚えが早く人々を驚かせ、

写楽・・・1795＝ 6歳： 叔父にあたる華溪寺大随和尚に字句を学んで、

古事記伝・・1798＝ 9歳： 江戸遊学を期待されたが、

伊能測量始・1800＝11歳： 父母を亡くしたため、家督を相続せざるを得なくなり、

7月カ船来航始1803＝14歳： 何度も叔父に遊学を願うも拒否され続けていたが、大随和尚が説得してくれ、ついに家を弟に頼み、江戸に遊学。古賀精里について昌平黌入りをめざすも果たせず、山本北山の{奚疑塾}に入門して漢学と詩文を学ぶ。学業は大いに進んだが、特に詩作を得意とし、当時大窪詩仏が神田お玉が池に、江湖詩社を開いていたが、そこに集う詩人の1人として活躍するが、放蕩不羈、借金をかなりこしらえ、債主が塾に度々来て返却を求めた。どうにも返す目あてがなく、結局自分で髪を切って僧体となって謝ったというほど、遊蕩の生活に溺れ、

ウツ船狼藉・1807＝18歳： 帰郷。

・・・・・1810＝21歳： 再び江戸に出て{奚疑塾}に戻り、柏木如亭・大窪詩仏・菊池五山ら江湖詩社の詩人たちと交遊するが、

高田屋拿捕・1812＝23歳： 「通俗唐詩解」に出会うと、{奚疑塾}を退塾し、

上野・駿河・遠江諸国を回って、各地の詩人と交流したり、名所を訪ねたりした後、

伊能測量終・1816＝27歳：

杉田玄白没・1817＝28歳： *故郷に帰り、塾を開いて{梨花村舎}と名付け、村瀬藤城・柴山老山らと{白鷗社}という詩社を結成し、又従姉妹の張紅蘭も入社させ、

水野忠成老中1818＝30歳： 結婚。まもなく妻に三体詩暗誦するよう言い残して旅立ち、

英船浦賀来航1822＝33歳： 帰宅して妻の出来栄えに感動すると、今度は紅蘭を伴って西遊の旅に出、

博多・長崎・日田に至る大旅行で、詩作の上でも交遊関係の上でも実り豊かな旅になって、

異国船打払令1825＝36歳：

・・・・・1826＝37歳： 足かけ5年して戻った。

鼠小僧磔・・1832＝43歳： 唐詩を広めようと江戸に赴き、

高島砲術・・1834＝45歳： *神田お玉が池に{玉池吟社}を開き、天保年間における江戸詩壇の中心的存在になる。

大塩平八郎乱1837＝48歳： このころから藤田東湖や佐久間象山などの経世家とも交わるようになって、時事への関心を深めて行き、

順天堂始・・1843＝54歳：

阿部正弘首座1845＝56歳： *急に{玉池吟社}を閉じて帰郷、

孝明天皇・・1846＝57歳： 京都に上って勤王の志士たちと頻繁に接触するようになった。

万次郎帰国・1852＝63歳：

ペリー来航・1853＝64歳：

五ヶ国条約・1858＝69歳： *〈安政の大獄〉の危険が身に及ぼうとする直前、流行中のコレラにかかり、没した。

「人づくり風土記(岐阜)」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,山田風太郎「人間臨終図巻」,